



SDM ニュース

SDM NEWS



狼嘉彰前研究科委員長の最終講義の様子

9

2011年 月号

行事予定

2011年10月4日(火)17:00 ~ 19:00

「医療・医薬研究開発システム論」公開講座
「医療システムにおける
画期的イノベーションの役割」

主催: SDM研究科

第一部 講演会

岡野栄之, MD, PhD

(慶應義塾大学医学部教授、医学研究科委員長)
「IPS細胞及び遺伝子改変霊長類遺伝子を用いた神経系の再生・疾患・創薬研究」

上野隆司, MD, PhD, PhD (スキャンボファーマ
シューティカルズ インク CEO兼CSO)
「細胞再生の夢を追う-プロストンテクノロジー」

第二部 パネルディスカッション

「日本発イノベーションは世界で勝つことができるか」
岡野栄之、上野隆司、前野隆司、手嶋龍一、久能祐子
@日吉キャンパス 協生館3階

[http://www.sdm.keio.ac.jp/news/
2011/08/18-162737.html](http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/08/18-162737.html)

要事前登録 無料

2011年10月19日(水)20:00 ~ 21:00

日経産業新聞Webセミナー
「未来世界をリ・デザインする」

企画: 日本経済新聞社クロスメディア営業局
協賛: SDM研究科

申込: <http://adnet.nikkei.co.jp>

要事前登録 無料

2011年11月15日(火) ~ 17日(木)、
12月5日(月) ~ 6日(火)

第3回プロジェクトリーダー育成講座

主催: SDM研究所

後援: 一般社団法人 PMI日本支部 (カテゴリー A、最大36PDU受講証明書取得可能)
@日吉キャンパス 協生館

[http://www.sdm.keio.ac.jp/news/
2011/07/07-110241.html](http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/07/07-110241.html)

要事前登録 有料

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

[http://www.keio.ac.jp/ja/
event/201109/201109_index.html](http://www.keio.ac.jp/ja/event/201109/201109_index.html)

通算34号 2011年9月発行

SDM
System Design and Management

研究科委員長兼研究所長からのメッセージ

SDMに入ってほしい学生のタイプは？

SDMも設立から3年半が経過し、お陰様で世間での認知度も急上昇中です。先日も、Stanford大学のある先生から『方々で「慶應SDMは日本にこれまでなかった新しい大学院」という高い評価を聞くよ』と言われ、手ごたえを感じています。一方、入学希望者からはいまだにこんな声も聞きます。「理系の研究もできますか?」「文系なんですけど、やっていけるのでしょうか?」もちろん、どちらも、YESです。ばりばり理系の最先端科学技術研究も、こてこて文系の社会科学的研究も、できます。ただし、ばりばり理系の最先端研究をするときにも、その研究成果を享受する社会のステークホルダの視点や、環境配慮の視点、安全の視点など、様々な視点をシステムとして考慮する広い視野を持った上でシステムとしての最先端研究をしましょう、逆に、こてこて文系の研究をするときにも、単なる調査研究ではなく、システムズエンジニアリングを基盤とするシステムマティクな視点から問題を整理し、「仮説検証型」ないしは「システムのデザインとV&V (verification and validation、評価と検証) 型」の研究をしましょう、というのが我々のスタンスです。いずれにせよ、何らかの課題に対し、多視点から、そして、俯瞰的な視点から、問題を大きくシステムとして捉えるとともに、対象とする課題を確実に要素に分解して解決していく、そんな学問を学びたいという志を持った方々に、入学頂きたいと思っています。もちろん、スケール感は様々です。最先端研究をより広くとらえる「とても深く、かつ、広く」型から、日本や世界というシステムを変革しようという「深く、かつ、とても広く」まで、様々な興味と目的意識を持つ学生(と教員)が、ともに学び合うことがSDMの醍醐味です。よって、文系・理系を問わず、対象とするシステムの分野やスケールに関わらず、問題をシステムとして解決したいという大志を抱く多くの方に、門を叩いて頂ければと願っています。

SDM研究科委員長・SDM研究所長 前野隆司



最近のニュース

TOPIC 1 最終講義報告

本来、2011年3月19日に行われる予定だった、ご定年となる2名の先生の最終講義。震災のため延期された結果、8月21日のオープンSDMの一環として行われた。お一人は、狼嘉彰前研究科委員長・教授・前SDM研究所長、お二人目は、日比谷孟俊前研究科副委員長・教授である。

狼嘉彰君最終講義 「System Design of My Life」

「System Design of My Life」。狼先生の最終講義のタイトルである。宇宙開発事業団(現JAXA)や大学におけるこれまでの研究・教育や、今後行いたいことについて、狼先生らしい情熱的な語り口からの最終講義が行われた。中でも印象的だったのは、これまでの宇宙開発の第一人者としての誰もが認める実績よりも、SDMの成り立ちの話と、狼先生曰く「フューチャー」、つまり、今後の狼先生の夢にフォーカスが当てられていた点である。研究面での夢は、海上離着着機による宇宙旅行の実現。2つ目は、第4代ローマ皇帝クラウディウスの青銅版の調査研究。3つ目は、ヨーロッパの運河めぐり。多様で、いずれもいかにスケールの大きな夢であることか。しかも、これらの夢の一部は、この秋から奥様と行かれるフランスINSAでの研究滞在の際に実現しそうな勢いである。今後も、SDM研究科・SDM研究所の発展のためにご助力いただけるとのこと、教職員・学生一同、感謝の極みである。狼先生の、絶えることなく湧き出す好奇心と実行力は、まさに、我々SDMerの範である。初代委員長が切り開いた原野は、広い。



日比谷孟俊君最終講義 「システムからの視点の面白さ」

日比谷先生の最終講義のタイトルは「システムからの視点の面白さ」であった。もともと化学分野で基礎科学的研究が行われていた日比谷先生が無重力実験を行うためにシステムという視点の重要性に気付かれた頃のお話、首都大学東京のシステムデザイン工学科でシステムという視点の教育を始められた頃のお話、そして、2007年度

のSDM開設準備、2008年度からのSDMでの教育・研究のお話を、体系立ててお聞きすることができた。また、ご先祖が吉原の和泉屋(遊女屋)であったことに端を発する、日比谷先生のもう一つのライフワークである江戸吉原文化の調査研究についても熱く語られた。科学技術の基礎研究から、科学技術のマネジメント研究、そして、日

本文化の研究まで、まさにSDMの文理融合、マルチングポットを自ら体現される日比谷先生の最終講義であった。今後も、SDM研究科・SDM研究所にご助力いただくとともに、吉原研究により博士(文学)取得を目指されているという。狼先生同様、尽きることのない知の探究心には、脱帽というほかない。



TOPIC 2 オープンSDM 開催報告

8月21日の日曜日にSDM研究科の公開イベントとして、オープンSDMが開催された。午前中は今年3月に定年退職を迎えられた狼嘉彰前教授、日比谷孟俊前教授の最終講義、午後からは教員、学生によるポスター発表、デモ発表、修了生を招いてのトークセッション「SDMとは」が行われた。

ポスター発表では各研究室やラボ毎に約50枚のポスターが掲示された。

デモ発表は多目的教室、実験室、CDF教室を使用して行われ、4K立体映像、VR/ARシステム、触覚デバイス、位置情報システム、可視光通信等に関するデモが行われた。

トークセッションでは、パネリストとして7人の修了生に参加していただき、現在の活動の様子、SDMで学んだことがどう役立っているか、今後のSDMに望むこと等について自由に意見を述べても

らった。会場からはかなり難しい質問もあったが、修了生も堂々とした討論をしていただき、SDM研究科の教育の成果がよく示されたセッションとなった。参加者はSDM研究科の受験を目指している学生、共同研究を行っている企業の方、慶應義塾の卒業生等、100名を超える方々に参加していただいた。オープンSDMの開催は今回が初めてであったが、来年以降も継続して行っていく予定である。



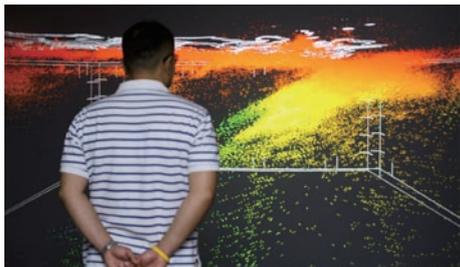
ポスター発表



入学相談のブース



触覚デバイスのデモ



3次元没入型ディスプレイのデモ



修了生を招いてのトークセッション



修了生 荻沼雅美氏



修了生 野中朋美氏



修了生 松尾康弘氏



修了生 八木田寛之氏



修了生 中野友道氏



修了生 榮谷昭宏氏



修了生 中島庸介氏

TOPIC 3 ALPS Workshop3および懇親会

2011年度の農林中央金庫寄附講座デザインプロジェクトALPS (Active Learning Project Sequence)の第3回ワークショップが8月6日、7日に開催された。

1日目はまず、SDMの白坂成功准教授がEnabler Frameworkの講義を行い、次に、神武直彦准教授が、Verification & Validation Activity Matrixの講義を行った。さらにDr. Sun KimがQuality Scorecardingの講義を行った後、オランダのデルフト工科大学のPaulien Herder教授が“Design of sociotechnical systems, the case of infrastructure design”という題の講義



「エネルギー制約下での涼快コミュニティの形成」というテーマをいただいたインフライノベーション研究所代表の田二谷正純氏の懇親会でのスピーチ

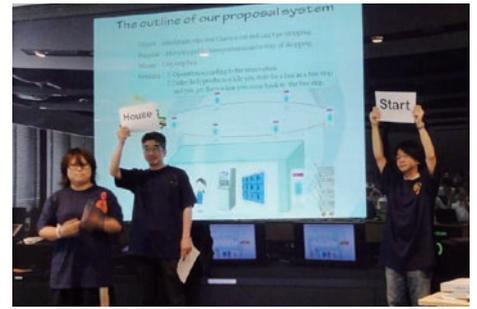
をビデオで行った。

2日目は14の学生チームの中間発表を行い、教員はその評価を行った後、スタンフォード大学のKevin Reynolds氏がRobust Conceptの講義を行った。

ワークショップの終了後、恒例の懇親会を行ったが、今回はスポンサー・ディナーという形式(プロポージャー企業の数社に懇親会の費用を負担していただき、そのスポンサー企業にはPRをしていただく形式)で開催させていただいた。多くの学生、教員、プロポージャー企業の方々に集まっていただき盛大な懇親会を開催することができた。



和歌山県のテーマ「和歌山県の魅力の可視化と広報戦略における共生・共カシステム」のプロジェクトを行っている学生グループの中間発表風景



ツネインシホールディングスのテーマ「地域社会の活性化、ツネイン(広島県福山市)スマートコミュニティプロジェクト」を行っている学生グループの中間発表風景



スポンサー・ディナー形式の懇親会の様子

TOPIC 4 アグリゼミ 東北視察報告

農村と都市の共生による地域再生を研究しているアグリゼミ。毎年夏に現地視察を実施しているが、今年は、8月27日から3泊4日で、東北各地を訪れた。

1日目は、青森県弘前市で、「奇跡のリンゴ」で有名な木村秋則さんの実践塾に参加。木村さんから、日吉自然栽培農園への応援メッセージも頂いた。

2日目は、宮城県大崎市の鳴子温泉で、地域の人たちが米作りを応援する「鳴子の米プロジェクト」について、聞き取り調査。農家、旅館経営者、行政担当者の、地域づくりにかける熱い心に触れることができた。

▶ <http://www.sdm.keio.ac.jp/news/2011/09/06-161133.html>



弘前の木村秋則塾で参加者のみなさんと

3日目、4日目は、山形県最上町で「町の宝探し」をテーマに、町内を視察したあと、町民を交えてのワークショップ。熱心な討議の末、活性化策として除雪ボランティアや厳冬期の行事を体験する「若者を鍛えるツアー」を提案。町の担当者が「ぜひ実現したい」と早速検討に入るなど、うれしい展開となった。

この視察で得た多くの学びと感動が、今後の学生生活にどう反映されるか楽しみである。お世話になった関係者のみなさまに、心から感謝申し上げます。

なお、この東北視察中の活動が、山形新聞(2011年8月31日朝刊)に掲載された。



最上町でのワークショップ発表

TOPIC 5 8月6日 SDM研究科説明会

8月6日、SDM研究科説明会が開催された。約60名の参加者には、研究科の説明、教員の紹介のあと、並行して開講されていたプロジェクト科目ALPSを授業風景を見学していただき、SDMの教育環境を肌で感じてもらった。また、今回もUSTREAMにてライブ放送され、インターネットからの参加者も多数見受けられた。

▶ <http://www.ustream.tv/channel/keiosdm>

終了後にいただいたアンケートの結果、「全体的なことが把握できた」、「授業風景が見れて良かった」、「先生の熱意が伝わった」など、95%の方から「満足した」との評価をいただいた。参加のきっかけも様々なメディアを通して認知していただけただけで、SDMの多岐にわたる活動が効果を奏していると感じることができた。

今回ご参加いただいた方の約60%が社会人であり、そのうち3分の2は30代以上の方であることもわかり、働きながら学びやすいカリキュラム作りに取り組んできた成果が感じられるものとなった。また、参加者の出身学部が文系・理系とも多岐にわたっており、SDM研究科の幅広い教育・研究領域を反映しているものと思われた。

ラボ・センター紹介

ソーシャルデザインセンター (SDC, Social Design Center)

公式サイト:
▶ <http://lab.sdm.keio.ac.jp/sdc/>SDC
Social Design Center

代表



前野隆司 教授

中心メンバー

早田吉伸 研究員
白坂成功 准教授
保井俊之 特任教授
手嶋龍一 教授
神武直彦 准教授 他

なぜ、センター?

SDM研究所の中には多くのラボがあり、様々な「研究」活動が行われています。しかし、大学でできることには、教育・研究活動だけでなく、実践的な社会貢献活動もあるのではないかと。そのようなモチベーションのもと、SDM研究所内に最初に立ち上げたセンターが、新たな社会システムイノベーションの先導を目指すSDCです。

SDCとは?

現在、我々は世界規模の大変革期に生きています。従来の社会システムが機能不全を起し、次々と新たな社会課題が噴出しています。これからは、『社会課題を解決するための新たな社会システムを“実践”(プロジェクトベース)を通じてデザインする』という発想が必要ではないでしょうか。また、大規模で複雑な社会課題は、誰か一人で解決できるものではありません。多様な担い手(マルチステークホルダー)による合意形成とソリューション開発を一体的に進めることが必要です。

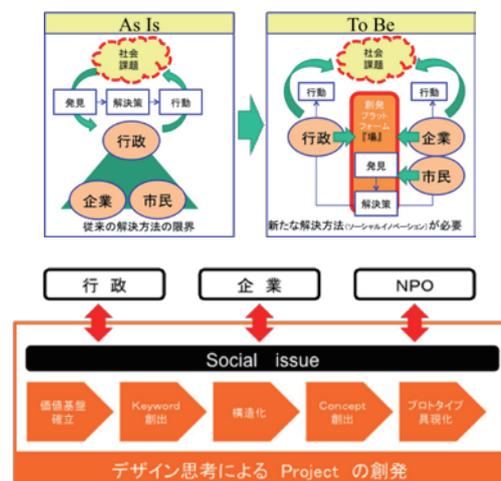
このような「社会課題起点」「デザイン思考」「プロジェクトベース」「マルチステークホルダープロセス」をキーワードに、私たちは「ソーシャルデザインセンター (SDC)」を立ち上げました。

SDCの活動のベースになるのは、慶應義塾大学日吉キャンパスにある「協生館」です。この「協生」の思想の下、ここには様々な分野で活躍する社会人学生等、社会変革の担い手たる産学官民の多様な人材が「教育」「研究」のために集まっています。まさにメルティングポットです。一方、慶應義塾大学・大学院全体を見回すと、多様な分野にまたがる「教育」「研究」の場として、知的ネットワークが集積されています。こうした知的資産を十分に活用し、またこれからの大学を「教育」「研究」のみならず、社会の再構築を先導するための「実践」の場にすべく、新しい取組へ挑戦しています。

SDCのコンセプトと基本プロセスとは?

SDCのコンセプトは「創発プラットフォーム」です。ここで参考としているのが、欧州を起点に広がっている「フューチャーセンター (Future Center)」の考え方です。フューチャーセンターとは、多様な参加者による未来志向の対話を通じて、創造的な協業を行い、複雑な社会問題を共に解決していく場のことです。SDCは日本ではほとんどみられない大学発の「フューチャーセンター」です。

またここでのデザインプロセスとしては大きく5つのステップを考えています。「価値基盤の確立」「キーワードの創出」「構造化」「コンセプト創出」「プロトタイプ化」です。



活動事例1 関内フューチャーセンター連携プロジェクト



イベントの様子



参加した前野隆司研究科委員長と早田吉伸研究員

SDCでは、地元横浜での活動として、関内フューチャーセンター(横浜市中区北仲通3)との連携活動を実施しています。関内フューチャーセンターは、新たなまちづくりを目指し横浜市と連携した社会起業家やクリエイターのインキュベーション拠点施設です。「mass×mass関内」をキーワードに社会起業家やクリエイターの集積・コラボレーションをはじめ、海外とのネットワーク構築を目指しています。SDCではこうした場づくりそのものをデザインしていく支援を行っています。

2011年7月7日にはテイキングオフイベントが開催され、120名を超える産官学民の多様なセクターの方々に参加し、活発な議論と情報交流が行われました。SDCからもオープニングシンポジウムに前野隆司教授(SDCセンター長)と早田吉伸研究員(SDCディレクター)が登壇し、横浜地域での新しい公共イノベーションの可能性について参加者と議論を行いました。

今後は、この場所を拠点に、まちづくりや社会起業家を輩出していくためのワークショップを実施していく予定です。

活動事例2 福島復興支援プロジェクト



イベントの様子



学生によるプレゼンテーション

2011年3月11日に発生した東日本大震災により、甚大な被害を受けたのみならず、半年近く経過する今もなお、余震の問題や、放射線量の問題、風評被害など様々な問題を抱えている福島。このような、福島が抱える大規模・複雑な問題に立ち向かうべく設立されたのが福島復興支援プロジェクトです。

活動内容としては、福島の復興に関わる勉強会の開催や、各メンバーが行っている福島復興支援活動の進捗報告などを行っています。また定期的に「福島復興支援」をテーマとしたイベントも開催しており、2011年6月11日には吉田泉財務大臣政務官をお呼びして参加者全員参加型で福島の現状や復興に向けての熱い議論を行いました。

現在は勉強会やイベントを主に行っていますが、将来的には福島にフューチャーセンターを立ち上げるなど福島復興に向けたリアルプロジェクトの実施を検討中です。

ご支援・ご協力をお願い

SDCでは、上記の事例のみならず、社会貢献や社会システムイノベーションの先導をめざし、様々な活動を行っています。また、メソッド開発、フューチャーセンター運営方法論、イベントマネジメント方法論などの研究活動から、自治体との協生と地域活性化、NPO/NGO・社会企業・ビジネス支援といった社会での実践活動まで、SDM研究所内の他のラボや外部組織との活発な連携を行っています。「社会課題を解決したい」「社会を変革したい」「社会貢献活動に参加したい」「社会デザイン&マネジメントについて学びたい」など、様々なモチベーションを持った皆様、ぜひ協働しましょう。ご連絡をお待ちしています。



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館

Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jpSDM
System Design and Management